

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学人間環境学研究科・共生文明学専攻
修士1年 原優子

今回、私は、シルクロードの出发点であり、古代の都でもあった西安という場所に、2週間滞在しました。そして、中国語を学ぶとともに、中国の文化や社会について学びました。中国語に関しては、2週間という短期間の滞在であった事、また日本語が堪能な西安交通大学の学生さんが、つきっきりでお世話をしてくださったため、あまり中国語をしゃべらなかつた事などから、上達したとは言いきれませんが、中国語を勉強しようという意欲が、中国に来る前より、格段に上がった気がします。発音が難しい中国語を話せるようになり、中国の方々と、いつか自分の力でコミュニケーションをとりたい、そのような思いで帰国しました。さらに、文化や社会を学ぶという点では、非常に多くの事を学べたという事ができます。例えば、中国の方は、お客を呼んで食事をする時に、とてもたくさんの料理を頼みます。それはとても食べ切れないほどの量です。しかし、それは、お客を迎える時に食べ物が足りなくて、恥ずかしい、追加注文する事などは良くないという中国の方ならではの、思いやりの心から生まれた文化でした。そのような日常の些細な出来事からも中国を学べますが、なんといってもやはり、兵馬俑や華清池など中国の歴史的な場所を見る事によって得るものは、大きいです。兵馬俑の壮大さ、いまだその全容が分かっていないと言われるその広大な建築物に、中国の偉大さをこれでもかというほど思い知らされました。華清池などでは、長恨歌のショーも行われ、夜空に美しい衣装が生え、最高のエンターテイメントを楽しむ事ができました。私の思っていた中国は、社会主義の怖い国だったので、このような明るい煌びやかなショーが行われる事に驚きました。その他にも、トイレに紙がない事が普通だったり、交通は車優先だったり、日本人としてはあまり嬉しくない事も多々ありましたが、そのどれもが私の肥やしになっていると感じています。このような海外経験を積むことが、ひいては日本を真に理解する事につながるものなのだと改めて実感しました。また、このプログラムで日中交流をした事によって、私もなんらかの形で、将来、日本と中国の架け橋になれるような事にかかわれたら良いなと考えるようになりました。それもすべて、西安交通大学の学生さんや、中国の方々の優しさに触れたからこそ思える事です。今回の、西安交通大学サマースクールのプログラムは、内容も非常に充実しており、日々学ばされる事ばかりで、とても満足のいく留学生活を送る事ができました。